

# 定期作況報告

令和3年9月  
(9月20日現在)



北見農業試験場

# 1. 気象経過

8月下旬：最高気温は平年より極めて高く、最低気温は平年並で、平均気温はやや高かった。降水量は平年より少なく（平年比21%）、日照時間はやや多かった（平年比139%）。

9月上旬：最高気温は平年より低く、最低気温、平均気温は極めて低かった。降水量は平年より少なく（平年比13%）、日照時間は平年並であった（平年比90%）。

9月中旬：最高気温は平年よりやや低く、最低気温は極めて低く、平均気温は低かった。降水量は平年よりやや少なく（平年比66%）、日照時間は多かった（平年比152%）。

以上のことから、この1か月間（8月下旬～9月中旬）は、気温はやや低く、降水量は少なく、日照時間はやや多かった。

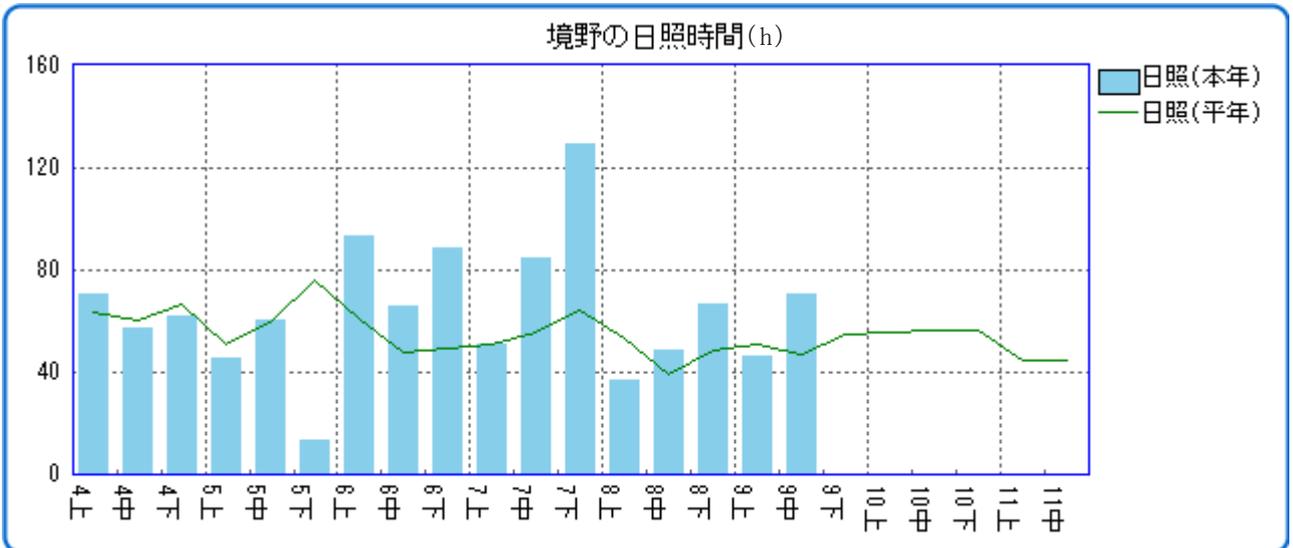
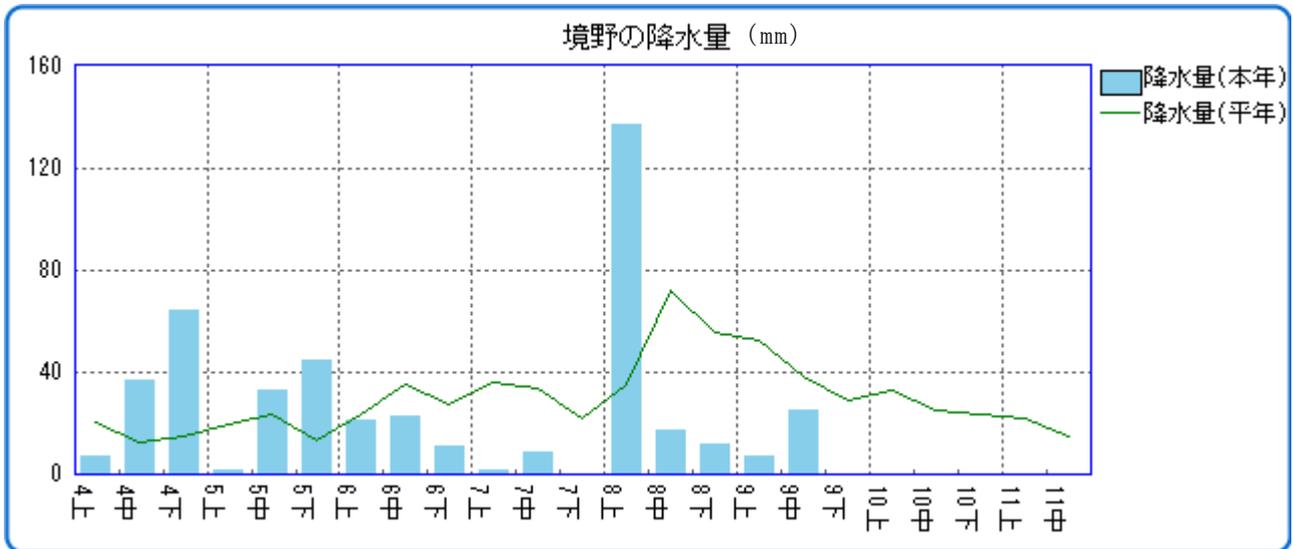
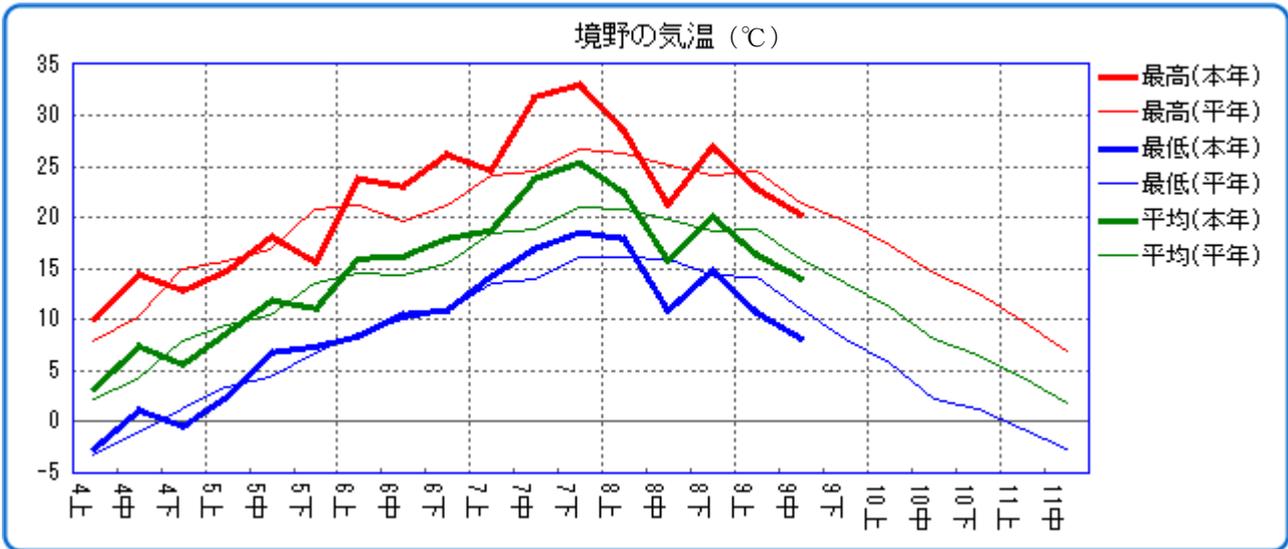
気 象 表

月 旬	平均気温(℃)			最高気温(℃)			最低気温(℃)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
8月 下旬	20.1	18.7	1.4	26.9	24.2	2.7	14.8	14.3	0.5
9月 月上旬	16.3	18.9	-2.6	22.8	24.5	-1.7	10.7	14.1	-3.4
9月 月中旬	14.0	15.8	-1.8	20.2	21.4	-1.2	8.1	11.0	-2.9

月 旬	降水量(mm)			日照時間(hr)		
	本年	10年平均	比較	本年	10年平均	比較
8月 下旬	11.5	55.5	-44.0	66.6	48.0	18.6
9月 月上旬	7.0	52.3	-45.3	45.7	50.7	-5.0
9月 月中旬	25.0	38.0	-13.0	70.7	46.6	24.1

注) 観測値は置戸町境野のアメダスデータである。

10年平均は前10か年間の平均値である。



## 2. 当場の作況

注) 本作況報告は北海道立総合研究機構北見農業試験場の平年値に対する生育良否に基づいたものであり、オホーツク管内全体を代表するものではありません。

### 1) 春まき小麦 作 況：良

事 由：穂数が少なく、登熟期間は平年より短かったが、登熟期間の日照が多く、登熟条件が良好であったため（前報）、子実重は平年比108～127%で多収となった。リットル重は平年並から上回り、千粒重は平年を上回った。

以上のことから、目下の作況は「良」である。

調査項目	春よ恋			はるきらり		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
子実重(kg/10a)	575	534	41	648	510	148
同上平年比(%)	108	100	8	127	100	27
リットル重(g)	793	795	△ 2	813	791	22
千粒重(g)	42.3	39.4	2.9	48.1	40.7	7.4

注) 平年値は前7か年中、27年(最豊)、平成29年(最凶)を除く5か年の平均。

### 2) とうもろこし(サイレージ用) 作 況：不良

事 由：9月20日の稈長は平年より39cm低い222cmであった。平年に比べ開花期は4日、抽糸期は3日早く（前報）、その後も8月上旬および下旬の気温が高かったことから登熟は平年通り進んでいると考えられるが、稈長は過去7年で最も低く低収が予想される。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目	チベリウス		
	本年	平年	比較
稈長(cm) (9月20日)	222	261	△39

注) 平年値は前7か年中、平成29年(最豊)、30年(最凶)を除く5か年の平均。

### 3) 大豆

作 況：平年並

事 由：成熟期は平年より11日早い9月14日だった。平年と比較して主茎長はやや短く、主茎節数は同等、分枝数は多く、着莢数はわずかに多かった。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	ユキホマレ		
	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)	9.14	9.26	△11
主茎長(cm) (9月20日)	61	64	△3.0
主茎節数(節) (9月20日)	10.4	10.3	0.1
分枝数(本/株) (9月20日)	5.7	4.8	0.9
着莢数(莢/株) (9月20日)	73.2	71.7	1.5

注) 平年値は前7か年中、平成26年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

### 4) 小豆

作 況：平年並

事 由：平年と比較して主茎長は短い主茎節数は多く、分枝数と着莢数は概ね同等だった。7月中下旬の著しい高温少雨により落花し着莢が遅れたが、登熟は概ね順調に進んでいる。

以上のことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	エリモシヨウズ			きたろまん		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
主茎長(cm) (9月20日)	64.8	74.3	△9.5	68.6	70.5	△1.9
主茎節数(節) (9月20日)	15.9	14.0	1.9	14.9	12.9	2.0
分枝数(本/株) (9月20日)	4.6	4.2	0.4	3.3	3.4	△0.1
着莢数(莢/株) (9月20日)	49.4	50	△0.6	48.2	47.4	0.8

注1) 平年値は前7か年中、平成26年(最凶)、令和元年(最豊)を除く5か年の平均。

5) 菜豆 作況：やや不良

事由：成熟期は平年より17日早い8月17日だった。成熟期における草丈、主茎節数、分枝数はいずれも平年を下回った。着莢数は平年より1割多く、一莢内粒数は平年をわずかに上回ったが、高温により登熟期間が著しく短いことから、小粒化が懸念される。

以上のことから、目下の作況は「やや不良」である。

調査項目	大正金時		
	本年	平年	比較
成熟期 (月.日)	8.17	9.3	△17
草丈(cm) (成熟期)	34.9	40.6	△5.7
主茎節数(節) (成熟期)	5.0	5.5	△0.5
分枝数(本/株) (成熟期)	4.0	5.3	△1.3
着莢数(莢/株) (成熟期)	23.2	20.7	2.5
一莢内粒数	2.90	2.79	0.11

注) 平年値は前7か年中、平成26年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

6) ばれいしょ 作況：平年並

事由：「男爵薯」では、黄変が始まった頃から茎葉の再生が見られ、9月20日現在、枯ちよう期に至っていない。でん粉価は平年並だが、上いも重は平年を大きく上回った。一方、「コナユタカ」では、上いも重、でん粉価、でん粉重ともに平年を大きく下回ったことから、目下の作況は「平年並」である。

調査項目	男爵薯			コナユタカ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較
枯ちよう期 (月.日)	—	9.1		—	10.16	
上いも重 (kg/10a) (9月20日)	6079	4611	1468	5315	5716	△401
でん粉価(%) (9月20日)	14.5	15.0	△0.5	19.4	21.0	△1.6
でん粉重 (kg/10a) (9月20日)	—	—	—	981	1129	△148

注) 平年値は前7か年中、平成30年(最凶)、令和元年(最豊)を除く5か年の平均。

## 7) てんさい

作 況：やや良

事 由：草丈、茎葉重は、8月上旬までの干ばつの影響が残り、前報に引き続き平年を下回った。一方根部は、十分な降水量と日照時間が得られたため順調な肥大がみられ、根重は平年を上回っている。また8月中旬以降、最低気温が低めに経過したこともあり、根中糖分も順調に上昇し、平年を上回っている。

以上のことから、目下の作況は「やや良」である。

調査項目	移植						直播		
	リッカ			アマホマレ			リッカ		
	本年	平年	比較	本年	平年	比較	本年	平年	比較
草丈(cm) (9月20日)	46.8	61.3	△14.5	48.5	61.4	△12.9	56.6	64.7	△8.1
生葉数(枚) (9月20日)	23.5	25.2	△1.7	28.2	28.8	△0.6	22.9	23.7	△0.8
茎葉重(g/個体) (9月20日)	446	707	△261	555	840	△285	603	741	△138
根重(g/個体) (9月20日)	1163	1069	94	1121	1028	93	1050	877	173
根周(cm) (9月20日)	36.7	36.0	0.7	37.9	37.5	0.4	34.5	32.9	1.6
根中糖分(%) (9月20日)	17.26	16.50	0.76	18.83	16.90	1.93	17.18	16.20	0.98

注) 平年値は前7か年中、平成26年(最豊)、28年(最凶)を除く5か年の平均。

## 8) 牧 草 (チモシー)

作 況：不良

事 由：2番草刈取(8月4日)後、8月の降水量は平年並であり、8月中旬以降は平均気温が平年並か低く推移したため、3番草再生時(2番草刈取後25日目:8月29日)の草丈は平年並であった。しかしながら、1、2番草の合計乾物収量は平年比82%と不良である(前報)。

以上のことから、目下の作況は「不良」である。

調査項目	なつちから		
	本年	平年	比較
草丈(cm) 3番草再生時(8/29)	40	37	3

注) 平年値は前7か年中、平成28年(最豊)、令和元年(最凶)を除く5か年の平均。